

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 臨床検査技術学科

職階 講師

氏名 永谷 真貴

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

臨床検査技師国家試験の対策科目である総合臨床検査学において、早期より国家試験問題に触れ、問題の解き方や問題の傾向を掴み、専門基礎知識を固め、基礎から応用問題を確実に解けるようにする。また、臨床検査技師として安全な医療を提供するため臨床検査のリスクマネジメントやチーム医療の一員としての役割、コミュニケーションスキルの重要性を伝えていくことが責務であると考えている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
総合臨床検査学Ⅰ	臨床検査技術学科	必修	3	89
総合臨床検査学Ⅱ	臨床検査技術学科	必修	3	97
総合臨床検査学Ⅲ	臨床検査技術学科	選択	4	76
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選択	4	74
臨床検査リスクマネジメント	臨床検査技術学科	必修	4	74

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

各科目で学んだ検査を組み合わせて患者さんを支える検査データとなり、病気の診断や治療方針につながることを理解し、各検査を総合的に読み解く人材になってほしいと考えている。また、医療人としての倫理感を持ち、社会的なマナーやエチケットを守れるように日々の生活指導も行っていきたいと考えている。

## 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

授業内に各科目の復習とともに、共通事項を説明しながら検査項目の関連を示すように努めている。文字だけでなく、イメージが付きやすいように図や表を用い、インプット・アウトプットができるように心がけている。答えを教えるだけでなく、解き方や参考書の紹介など自ら調べるきっかけを提示するようにしている。

出席登録の確認や課題の期日内提出など、授業内で決められたルールを守るように、意識づけている。

### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

臨床検査の総合学術情報雑誌（検査と技術、Medical Technology）を一人1冊配当し、雑誌の中から自身が気になるトピックを選び、主体的に学ぶ時間を設け、選んだトピックはどんなもので、何を感じ、何を考えたか、レポート課題を行っている。

## (2) ICTの教育活用

有

学習管理システム「學理」を用いて、講義後に確認テストを実施し、知識の定着のために使用している。学習管理システム「実践」を用いて、過去の国家試験を解いてもらい、苦手な分野や問題をピックアップして復習を促し、授業内に試験としても活用している。授業動画を録画し、復習に使用できるように配信している。

## 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

文字を少なく、図や表を中心に視覚的に見やすい講義スライド作成をした。

### (2) 学生の理解度の把握

B

講義の最後に確認試験を実施した。

### (3) 学生の自学自習を促す工夫

B

次回の講義の予習課題を課した。

### (4) 学生とのコミュニケーション

A

対面およびメールで対応した。

### (5) 双方向授業への工夫

B

質問内容等、個人対応とともに全体にフィードバックするようにした。

### (6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

過去10～20年分の国家試験および直近の模擬試験を参考に出題傾向を確認し、必ず押さえる部分とプラスで覚えるポイントを説明した。また、以前取り上げた内容の確認や復習の講義を行い、理解を深めるように促した。繰り返し復習できるように講義の資料や授業の録画動画を掲示した。総合臨床検査学演習では、試験成績が伸びない学生に対し、居残り学習を課し、集中的に勉強する時間帯を設けた。面談をしながら、個別指導を行った。

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

### (1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

声が聞き取りにくいという意見に対して、マイクの位置を変更し、はっきり、ゆっくり話すように心がけた。

### (2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

指摘は減った。機器の不具合や教室のスピーカーの位置などで聞き取りにくいこともわかったので、機器等の改善をしていく。

### (3) (2)を踏まえた次年度の取組

学生からの意見を大切にして、よりよい教育活動ができるように努めていく。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

### (1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

個人に合った勉強法を見つけられるように、自身で取り組んできたことや成績が伸びている学生の勉強法を紹介して、卒業後も勉強を続ける方法や手段が身に付けてられるようにしていく。講義でのインプットだけでなく、人に説明する、教えるというアウトプットができる環境を作っていく。

### (2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

臨床検査技師国家試験合格および就職先の内定。

## 7. 指導力向上のための取組 (FD研修参加等)

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

積極的に参加した。参加できなかった際は録画で確認を行っている。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

大学で学んだ知識が臨床の現場でどのように生かされ、やりがいを感じることができるかを伝え、モチベーションを上げて勉強に取り組めるように指導していく。  
臨床査技師を目指す学生が全員国家試験に合格することを目標にする。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

シラバス、配布資料、確認テスト、レポート課題